



日本人には「人生50年」といわれる時代がありました。戦国時代の事かと思いきや、実はこれは終戦直後の言葉だそうです。明治30年頃、今から100年ほど前には日本人の平均寿命はなんと37歳。

これは日本が長く「肉なし、油なし」の食生活をしてきたためだといえます。平安時代の肉食禁止令や仏教の影響で肉食を避けたことからだそうです。日本は海に囲まれ四季折々新鮮な食材があり、食材にあまり手を加えなくてもおいしいものが食べられた事も原因のようです。今世界一の長寿国を誇る日本では信じられないようなデータです。

家族揃って健康な長寿を願ってやみません。

#### <第110回 ほほえみの会>

新しい方、堀越先生含め7人の参加でした

▽ 3歳8ヶ月女の子、急性リンパ性白血病。アメリカで発病。ボストンの子ども病院に入院。治ったことを確認して日本へ。日本とアメリカの病院の差は大きい。アメリカでは親のケアなどサポート面の充実がある。治療時の入院は1週間、あとは自宅に看護婦が来てくれる。胸に点滴の針を刺すポートを埋め込んであり、親が抗がん剤を入れて、筋肉注射もする。38度を超える熱が出たらすぐに病院へ行く。治療費は高いが病院には寄付が多く、行くたびに折り紙などのプレゼントがある。また、遊んでくれるプロも居る。ソーシャルワーカーは患者一人一人につく。ボランティアも充実。病院まで小型飛行機で送ってくれるボランティアもある。医師の考え方も違う。医療について相談相手がいらないが、こども病院の先生はよく面倒を見てくれるので満足している。

▽ 肝芽腫で肺に転移もあったが無事退院を迎えることが出来た。抗がん剤が効かないタイプで5年生存率は1割から2割といわれてきた。外科の医師に直訴の電話をして調べ直してもらい手術をしてもらった。その後、末梢血移植を行った。自分の子供を失いたくない。その気持ちだけで行動をしてきた。子供が病気になったことは不幸ではない。他の人が経験できないことを経験できた。ラッキーなことだと思っている。退院後は民間の看護婦さんの訪問看護を1週間に1度お願いする。

▽ 2歳8ヶ月男の子。急性リンパ性白血病。発熱があり近くの病院で診てもらったところ血液検査で炎症反応があり総合病院へ行くようにいわれた。3週間入院して熱は引いたが退院後再び具合が悪くなる。血液内科で骨髄検査をしてようやく病気がわかりこども病院へ。3週間の入院が無駄だったのかと悔やむ。病気がごく初期でわからなかったのかもしれない。こどもの病気のことを親戚や会社の同僚に話すかどうか悩む。同情や慰められるのも嫌だし、あれこれ聞かれるのも嫌。会社の上司には話した方がいいという意見がありました。入院したばかりで親がいないと朝は食事を食べないというので心配。これについては、子供は最初は辛いけどすぐ慣れるし、母親べったりの暮らしから離れ、周りに友達も出来る。入院すると子供は成長をする。といった意見もありました。

▽ 北3病棟に親と看護婦さんの間でコミュニケーションボードを置いてあるが非常に便利に利用しているとの話がありました。

次回 総会は 9月 12日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>